

# 第3学年 組 図画工作科学習指導案

指導者

## 1 題材 「だんボールのへんしん」(立体に表す)

## 2 指導観

- 本学級の児童は、感じたことや想像したことを造形的に表現することに対して興味・関心が高く意欲的に取り組む児童が多い。1学期に、「みんなでつくろう!ゆめの町」では、厚紙を使い、紙を折り曲げたり丸くしたりしながら個人や学級全体でゆめの町をつくる活動を楽しんだ。

この題材で児童は、互いに作品を見合いながら友だちの発想や表し方のよさに気づきそのよさを自分の作品に取り入れて作品をつくっていくことができた。しかし、学習計画の前半では表したいものがなかなか浮かばなかったり厚紙を立体的に表せるよさを実感できなかったりするなどつくりだす喜びを十分味わうことができないでいる児童が見られた。その意味では、図工科がめざす感性を働かせながら材料のよさを理解して発想を広げる力がまだ不十分だと考えられる。

- 本題材で扱う段ボールは、ちぎり、ちぎった段ボールからいろいろな形を見つけ出し作品をつくりだす喜びを味わわせることに適した素材であり、本題材では、児童が、材料の面白さに気づき、材料に親しみながら工夫して作品づくりを行うことをねらいとしている。

段ボールを分解してちぎるという行為を十分に楽しむことから段ボールに親しみながら活動に入っていけると考える。また、この活動を通して段ボールの特徴に気づいていけるだろう。特徴とは、ちぎってできた形の面白さ、ちぎり方次第で異なる質感になる面白さ、ちぎったりはいたりしてできた模様の変化と考える。これらの様々な形や質感、模様を活用して2つ3つと段ボールを組み合わせていく活動を通して、材料を生かし多様な発想をもとにした作品づくりができると思う。さらに、できあがった作品を交流することによって互いの作品のよさ材料のよさを味わうことができるだろう。

以上のことから、本題材は、身近な材料を使って立体に表す活動を通して見たり感じたりする力、形を生かしてどんな作品につくりあげるかを考える力、そして、ただの段ボールから造形的につくりあげる喜びを味わわせる上で意義深い。

- 本題材の指導にあたっては、児童が段ボールの面白さを感じその特徴を生かしながら作品づくりを行い、箱の段ボールから自分の作品へと「へんしん」していく楽しさを味わうことができるようにしていく。

そのために、まず材料と触れ合う時間を十分に確保し材料の面白さや特徴に気づくことができるようにする。また、思いついた形を交流することによって段ボールをちぎることによってできた形の変化、質感の変化、表面の模様の変化があることを全体で確認しながら進めていく。

そして、形を組み合わせていく活動では、ちぎった段ボールの特徴を生かしながら作品を作っていくことができるように特徴を確認できる資料を掲示したり友だちの作品をみる時間を確保したりする。また、図工ノートを活用して表したいものを整理したり工夫したりできるようにする。

最後に、鑑賞の活動で互いの作品を見合うことを通して、改めて材料のよさについて振り返るとともに自分たちがそれをどのように思いを広げ生かしたかについて話し合いたい。

## 3 目標

- 段ボールを手でちぎって、いろいろな形をつくり、材料の面白さに気づく。
- 材料に親しみながら、つくりたいものを思いつく。
- 思いついたことをもとに、つくり方を工夫して表す。

4 指導計画 (7時間)

	児童の活動	指導上の留意点
1	1 段ボールをさいたりちぎったりしてできた形について話し合う。	※ 段ボールの特徴に気づくことができるようにちぎる活動を十分にとる。
2 (本時)	(1) 箱の段ボールを手でさいた形について話し合う。	〈ちぎってできた形〉 ・ぞうの鼻の形 ・ワニの顔の形 など 〈紙の感じ〉 ・波打った面がある。 ・波打ったところが丸くなる。 ・うすくはがれたところは丸くなる。 ・うすい紙みたいなどころがある。
	(2) さいただんボールをちぎってできた形について話し合う。	・表面をとるとやわらかい感じになる。 ・色がちがうところがある。
	(3) できた形をもとに見たて遊びをする。	〈表面の模様〉 ・横の線に見える。 ・たての線に見える。
	2 ちぎった形を組み合わせて楽しい形に「へんしん」させる。	※ 思いついた形を交流することで多様な組み合わせになることに気づかせる。
3	(1) ちぎってできた段ボールの特徴について話し合う。 ・紙の形 ・紙の感じ ・紙の 모양	※ 多様な組み合わせを試しながらつくることができるようにする。 ・机において全体を見て確かめる。 ・手に持って全体を見て確かめる。
4	(2) ちぎった形からつくりたいものを考える。	※ 互いのよさに気づきやすくするために友だちと交流する時間を確保する。
5	(3) つくりたいものに合わせて形を組み合わせた り、新たな形をつくったりする。	※ 図工ノートを活用して表したいものを整理したり工夫したりできるようにする
6	3 絵の具やパスで色をつける。	※ 前時で見つけた段ボールの特徴を生かしながら組み合わせを考えることができるように資料を提示する。  ※ 接着の方法を知らせる。
7	4 互いの作品を鑑賞しあう。	※ “すてきだね”カードを活用し、互いの作品のよさを伝え合うようにさせる。

5 本時 平成 22 年 10 月 日 ( ) 第 校時 図工室にて

6 本時の目標

- 材料に親しみながら、試したことからつくりたいものを思い出すことができる。
- 材料の特徴を理解して、自分の思いに合わせてつくり出すことができる。

7 本時指導の考え方

本時のねらいは、材料に親しみながら、試したことから自分なりの思いをもち、さらには、材料の特徴を理解しながら自分の思いに合わせてつくり出すことができることである。

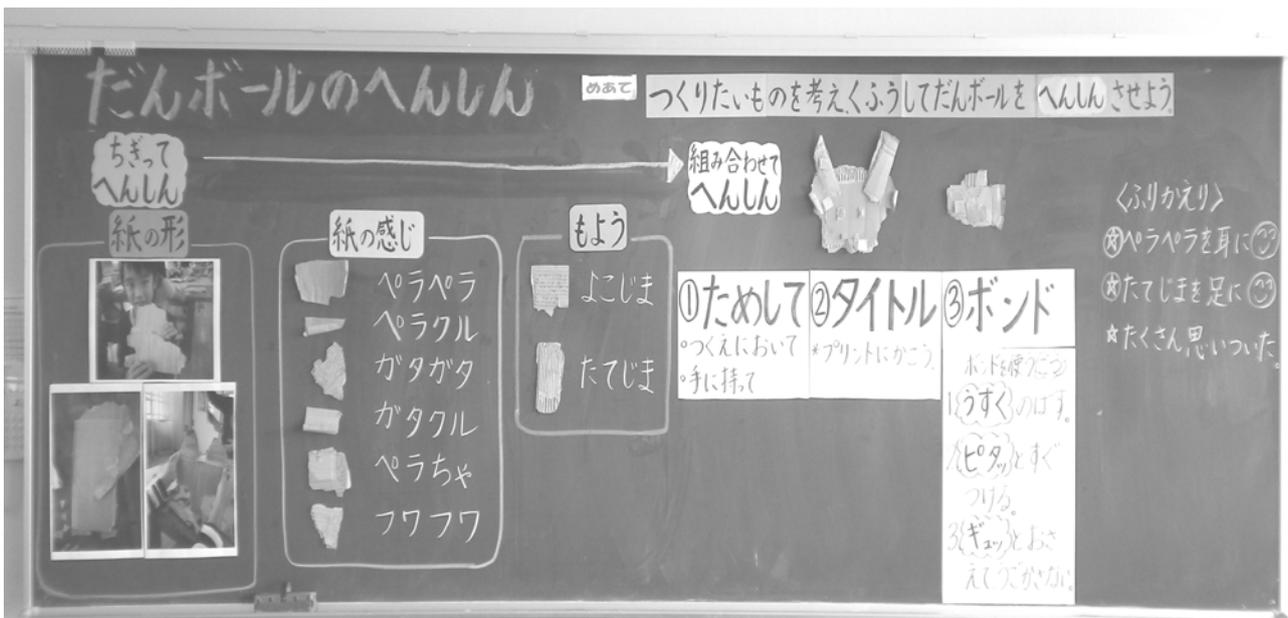
前時では、段ボールをちぎる活動を十分に行いちぎった段ボールの形の特徴を全体で確認している。また、思いついた形を交流することで多様な見方や組み合わせがあることを学んでいる。

そこで、本時では、材料の特徴を確かめてその特徴を生かしながら作品を作っていくようにする。特徴とは、ちぎった形の特徴とちぎったりはいだりした段ボールの紙の感じや模様の特徴とする。前時でちぎった形の特徴を捉えさせているので、本時は前時で捉えさせた特徴を資料を使って全体で確認し、さらには、ちぎったりはいだりした段ボールの紙の感じと模様の特徴を捉えさせていく。多くの特徴を捉えさせることで材料のよさを生かした作品づくりができるようになる。また、前時に思いついた形を写真で資料として提示し児童の発想の手がかりにさせる。

実際につくる活動では、ボンドで接着する前に机に置いたり手でもってみたりするなど試しながら活動を進めていくようにして、試した後は、作品のタイトルをつけさせ児童のイメージを表していけるようにする。

活動の最後には、作品、作品のタイトル、タイトルをつけたわけ、工夫を振り返らせながら材料のよさを生かして段ボールを「へんしん」させたことを確認させることで、材料の特徴を生かして作品づくりをする喜びを味わわせることにつながるようになる。

8 板書計画



9 本時の展開 (2/7)

配時	学習活動と内容	指導上の留意点
3	<p>1 前時のちぎった段ボールから思いついた形を交流したことを想起させ、本時のめあてを確かめる。</p> <p>○ 資料をもとに思いついた形について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぞう</li> <li>・わに</li> <li>・ひこうき など</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">つくりたいものを考え、くふうして段ボールを「へんしん」させよう。</span></p>	<p>※ 前時の思いついた形の写真を掲示して想起させる。</p> <p>※ “ちぎる”ことを確かめる。</p>
10	<p>2 つくりたいものを考える。</p> <p>(1) ちぎった段ボールを見ながら感じたこと思ったことを話し合う。</p> <p>〈紙の感じ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・波打った面がある。</li> <li>・波打ったところが丸くなる。</li> <li>・うすくはがれたところは丸くなる。</li> <li>・うすい紙みたいなどころがある。</li> <li>・表面をとるとやわらかい感じになる。</li> <li>・色がちがうところがある。</li> </ul> <p>〈表面の模様〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横の線に見える。</li> <li>・たての線に見える。</li> </ul> <p>(2) どんな工夫をするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちぎった形の特徴から組み合わせを考える。</li> <li>・ちぎったりはいだりした紙の感じから組み合わせを考える。</li> <li>・表面の模様から組み合わせを考える。</li> </ul>	<p>※ ちぎった段ボールを提示しながら紙の感じや表面の模様の特徴を確認させる。</p> <p>※ 段ボールの特徴を捉えやすくするため名前をつけさせる。</p> <p>※ 前時の思いついた形の写真を参考にさせる。</p> <p>※ 組み合わせを提示することによって、発想を広げさせる。</p> <p>※ 自分のイメージを試しながら確認させて、タイトルをつけさせるようにする。</p> <p>※ イメージをスケッチで残したい児童には、必要に応じて試したものを描きながら進めてよいことを知らせる。</p> <p>※ ボンドの使用方法を確認する。</p>
25	<p>3 自分がつくりたいものをつくる。</p> <p>(1) ちぎった段ボールをもとにつくりたいもののタイトルを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机において全体を見て確かめて、タイトルを考える。</li> <li>・手に持って全体を見て確かめて、タイトルを考える。</li> </ul> <p>(2) 工夫をしながらつくる。</p>	<p>※ タイトルをつけたわけや工夫を確認することで、ちぎった段ボールの特徴を生かして作品づくりができたことを感じ取らせる。</p>
7	<p>4 本時の活動を振り返る。</p> <p>(1) 以下の観点をもとに振り返りカードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのタイトルをつけたわけ</li> <li>・工夫したところ</li> </ul> <p>(2) 作品や振り返りの観点について交流して、段ボールの「へんしん」を確かめる。</p>	<p>※ ちぎった段ボールを組み合わせせて「へんしん」させたことから作品をつくりあげていく喜びを感じ取らせる。</p>